令和６年度学校評価（中間）　　学校名（宮島小・中学校）

評価計画					自己評価					コメント	改善方策
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	中間８月	最終２月	達成度	評価	結果と課題の分析		
小中一貫教育のよさを最大限に生かす学校運営	４・３・２制のメリットを生かして、９年間で育てる。	コミュニケーション能力（助け合い・認め合い・支え合い）を育成するために、ブロック活動を充実させる。	「ブロック目標を達成することができた。」と答えた学園生の割合（４・７・９年） 「ブロック目標を達成しようと意識することができた。」と答えた学園生の割合（１・２・３・５・６・８年）	80%	【前期】93.3% 【中期】89.5% 【後期】85.1%		【前期】116 【中期】111 【後期】106	【前期】A 【中期】A 【後期】A	【前期】行事だけでなくブロック目標をクラス目標に取り入れて色々な場面で共通理解を図って意識を高めた。そのため交流の場を作ることで主体的に活動し、助け合いができるようになってきた。 【中期】達成度は100を超えているが、中期生に求める「折り合いを付けながら誰とでも話し合うことができるコミュニケーション能力」は未達成だと感じる。 【後期】ブロック朝会で個人目標や振り返りを発表し、聴き合うことで、後期生としての自覚をもてるようになってきた。	後期生の職場体験やインタビュー活動が積極的で素晴らしいと感じることがいくつもあった。次の学年のことを考えていることも伝わった。今後もブロック活動を充実させ、前期の段階からコミュニケーション能力を育成する取組を続けてほしい。	・ブロック活動や行事を活用して各学年が助け合い、つながりをもてるような交流の場を増やしていく。 ・目指す姿を明確に示す。（教室掲示） ・児童生徒が企画運営を行う「中期レク」を実施する。 ・行事を通して、一人一役を促していく。 ・８年、９年が交流する中でリーダーシップを引き継ぐ取組を考える。
地域の財産（歴史、文化、自然）を学ぶ教育体系の確立	自己の将来、宮島の将来を考える力を育てる。	主体的・協働的に課題を解決する力をつけるために、対話を通して考えを深めさせる。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と答えた学園生の割合	70%	84.4%		120	A	・日常的にペア学習やタブレットを使った話し合う活動を継続した結果、活発に話し合い活動に取り組むことができるようになった。 ・適切な場面設定により、学習課題を自分事として捉え、考えを深めることができた。 ・振り返りで、学習内容・考え方を生かした場面を具体的に記述させることが効果的である。	宮島学園の子どもは積極的で優しくて温かく思いやりがある。宮島学習で地域から大切にされていることが要因の一つだと思う。学校で学んだことを学校以外で活用することの大切さや方法を子どもたちに教えてほしい。	・見方・考え方を生かした授業づくりを行う。（何につながるのか）考える力を身に付けさせる。 ・この学習がどんなところで役に立ちそうか意識して振り返りを行わせる。 ・学んだことを生活に活かせる英語の表現を教える。
			「授業で学んだことを生活や他の学習で活かしている」と答えた学園生の割合	70%	84.4%		120	A			
多様な学園生の育ちの場の提供	基本的な生活習慣（あいさつ）の確立をさせる。	発達段階に応じた行動目標を児童生徒に提示し、その姿を日々評価する。	「あいさつは、自分から進んでします。」と答えている学園生の割合	90%	92.6%		102	A	・あいさつ運動は全学年、実施できたが取組のねらいを伝えると、さらによいあいさつにつながると感じた。 ・生徒指導連絡会を２部制（通常・アネックス）にして、情報の共有と熟議がどちらも時間をとることで充実できるようにした。 ・オンライン学習や自習等、一時的に学園生の状況に応じた利用ができた。 ・通級指導教室の利用について充足感を感じている学園生が多くみられた。 ・縦割り班活動では、学園生よりも先に教員が指示を出す場面があった。	相手にあいさつをしてもらったら自分がうれしくなる、周りが明るくなるから大切なのだという説明の仕方だと前期生でも理解できると思うので実践してほしい。あいさつをすることでその後のコミュニケーションが増えて豊かになっていくことを子どもたちに伝えてほしい。	・２学期に児童生徒会執行部がよいあいさつの仕方を広めていくためにあいさつ運動を実施する。 ・各クラスのあいさつ運動を行う際は、事前に学級生活委員がねらいを説明しにいく。 ・生徒指導連絡会のシートの記入を工夫し、日々の取組に活用できる情報を共有させる。 ・教員が先まわりをして指示を出しすぎないように留意する。
	多様な価値を受け入れ、認め合える集団をつくる。	学園生の特性に応じた支援について外部の専門家と意見交換し、内容や支援方針を全教職員で共通理解する。	「宮島学園は、安心して過ごすことができる学校です。」と感じている学園生の割合	90%	94.8%		105	A			
ワークライフバランスのとれた元気な職場	目的やスケジュールを意識することで、組織的な取組を実施する。	目標達成に向け、行事のスケジュールを意識し企画運営委員会、分掌会及びブロック会を計画的に実施し、状況を共有する。	タイムマネジメントを意識することで、「時間に余裕をもって業務することができた」と感じている教職員の割合	67%	81.3%		121	A	・年間行事計画表を部会の事前に配布したり、年間計画に提出書類〆切予定日を記入したりしながら、主任主事を中心とした担当者と連携することで、スムーズに業務が遂行できていると捉える。しかし、さらにきめ細かい新たな調査項目まで、把握できないことがあった。 ・効率的計画的に業務が遂行できたことから、負担感が減ったものと考える。	日頃から先生方が肯定的な評価をしあったり感謝しあったりしていることも働きやすさにつながっていると思う。先生方の横の連携もしっかりしていってほしい。	・引き続き、年間行事事前計画表を配布し、主任主事が年間計画に〆切日等を記入するよう働きかける。 ・一人一人学校の取組についてがんばってきたことを見取り、肯定的に評価していく。
			「宮島学園で働いてよかった」と感じている教職員の割合	90%	87.5%		97	B			

※　「評価」の項目については、「達成度」は「報告期の数値／目標値」である。「目標値」に対する「達成度」をA～Dで評価する。（A:100%　B:80%以上　C:60%以上　D:60%未満）
逆転項目の評価については、A（目標値以下）B（目標値～前回数値）C（前回数値より悪化）とする。